

ときめき人

Tokimeki bito



追文化協会「こらぼ座」

座長の佐藤芳直さん(前列右から5番目)と、副座長の三浦美代子さん(前列右から4番目)。公演依頼は登米市社会福祉協議会まで。☎0220-21-6310

「♪まだまだやるぞ まだまだやるぞ 人生100年これからだ これからだ」。軽快なリズムに合わせて、演者全員が笑顔で歌い踊り、観客も自然と体を揺らす——。公演のフィナーレを飾るお決まりの楽曲「人生100年これからだ」が流れる中、会場は温かな一体感に包まれる。

追文化協会「こらぼ座」は、同協会に所属する文化芸術団体の有志が集まり、「地域の高齢者に芸術や音楽を届けたい」との思いから立ち上げたのが始まりで、平成30年に結成された。現在は、舞踊や民俗芸能、フラダンス、カラオケ教室などの8団体から、その都度出演可能なメンバーが集まって公演。社会福祉協議会のボランティアにも登録し、市内の高齢者施設などから依頼を受け、誰もが楽し

めるステージを届けている。

「見てくださった人たちの笑顔や拍手、そして何より、アンコールの声をいただいた時が一番やりがいを感じますね」と、座長の佐藤さんは顔をほころばせ語る。「こらぼ座」ならではの多彩な演目は毎回大好評で、公演後には「元気をもらった」「また来てほしい」といった声も寄せられ、次の舞台への励みになっている。

「『こらぼ座』のおかげで団体同士の絆も深まり、私自身にとっても、活動が明日への活力になっています」。副座長の三浦さんは優しい笑みを浮かべて話す。文化芸術が結んだ縁が、人から人へとつながり、そこから生まれる笑顔の輪は、これからも地域の中で広がっていく。

編集後記

▼各会場で熱戦が繰り広げられた中総体。ひたむきに競技に挑む姿や、会場が一体となった応援に胸が熱くなる取材でした。会場では、校長先生になっていく恩師や、競技審判として活躍している同級生、応援に来ていた知り合いにたくさん声をかけてもらい、暑さに負けず頑張れました。(森田)

▼例年より遅めの梅雨入りを迎え、本市でも汗ばむ暑さの日が増えてきました。わが家では、乳児の肌が荒れないよう、暑さ対策やスキンケアに気を配る日々。梅雨のじめじめに負けず、子どもの肌も親の気分も「さらっと」過ごせる夏にしたいものです。(添田)

▼世界中で盛り上がりつつあるサッカーワールドカップ。日本対ブラジル戦では、延長戦突入間際の敗北に涙した人もいたのではないでしょう。ワールドカップの興奮から冷めて現実に戻った私に待っていたのは、アディショナルタイムも延長戦も許されない広報の締め切りでした。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

